

うどんについて



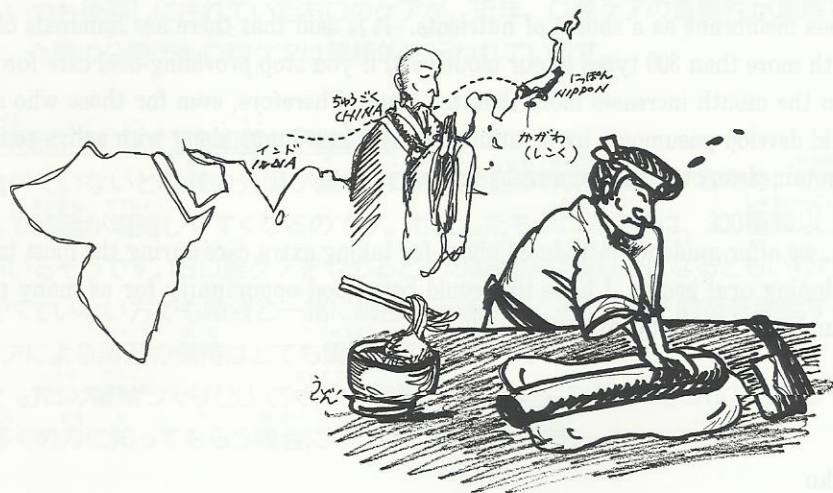
進学塾塾長、ライター
くろかわ ひろのぶ
黒川 博信

レースのカーテンが瀬戸内海からの風に揺れる、そんな部屋でこの原稿を書いています。四国の香川です。

瀬戸内海はとても穏やかな海で、寄せる波も優しく静かです。香川県人の気質はそんな瀬戸内海の影響を受けて、静かで穏やかだと言われます。

香川といえば、ここ十年來さぬきうどんがブームです。日本全国どこへ行っても「香川から来た」といえば言えば「さぬきうどんの本場ですね」と言われます。

うどんは平安時代に香川出身の空海という高僧が中国から伝えたものです。当然うどんは香川に広まりました。千二百年以上も昔のことです。香川県民はそれ以来ずっとうどんを食べてきました。香川だけの健気でひっそりとした食習慣でした。それがほんの十年ほど前から突然全国的なブームになり、日本中からたくさんの方がさぬきうどんを食べにやってくるようになりました。



うどんセルフの店では一杯250円ほどです。安いですから店自体も豪華なものではありません。案内も看板もなし、大変に見つけづらい。目立たずひっそりと営業しています。ようやく店にたどりついて入口がわからない。入口を見つけても注文のしかたがわからない。大げさではなく、そんなところなのです。

それをさめきうどんの面白さのひとつと考えた人がいたのです。平成の空海とてもいいましようか。美味しさの上に「うどん店に行くことを面白がる」という楽しみ方を創出しました。平成の空海のおかげでさめきうどんは全国に知れ渡り、いまかいがいひろまったのです。

私は香川県で生まれ育ちました。十八歳で地元の高校を卒業し、大阪で四年間の大学生活をおくりました。大学卒業後は東京で五年間働きました。今から二十二年前です。終身雇用が一般的だった当時の日本では、会社を途中で辞めるのはとても珍しいことでした。「会社を辞めます」と告げると上司はき驚のあまりのけぞっていました。私には、海外を満足ゆくまで旅したいという夢がありました。中学生の頃から思い続けた夢です。会社を途中で辞めるリスクよりも夢を実現させることの方が、当時の私にはよほど重要でした。結局二十七歳から二十九歳までの二年間、海外を心ゆくまで歩いて日本に帰ってきました。

香川は幼少時を暮らした土地、大阪は大学時代を、東京はサラリーマン時代をそれぞれ過ごした町。そのあとの二年間は海外のいろいろな国のさまざまな街や山や海。あちらこちらをうろついてきました。

ただ大切なことは、どこにいてもいつも心の隅には香川が精神の拠りどころとして存在していました。海外から日本に来ているみなさんも同じではないでしょうか。故郷はいつもそばに寄り添ってくれている存在ではないでしょうか。

帰国後香川で学習塾を営んで二十年になります。通ってくる子どもたちには、文化レベルの高い人生を送ってほしいと願っています。将来、手に入れたいものや行きたい土地が見つければ、実現できる能力を身につけてほしいということ。能力とは知識や経済力や人脈などです。それを教養と呼ぶのだと思います。教養を身につける手助けをするのが教育です。

いま私が触れ合っている子どもたちには、みなさんのように自分の故郷を大切に思いながらこの広い世界で活躍してほしいと願っているのです。

プロフィール

くろかわひろのぶ
黒川博信

1961年香川県生まれ。大阪外国語大学卒業後、5年間の商社勤務。辞職後、3年計画で世界一周のひとり旅に出る。帰国後は香川でシャンティ進学塾を設立。新聞・雑誌等に教育・旅行エッセイ、コラムを連載。著書に「バックパッカーはインドをめざす」(集英社)「万華鏡をのぞいたら」(花伝社)など。